令和４年度　宮城県立迫支援学校　共同研究　～令和５年１月現在～

|  |  |
| --- | --- |
| 研究主題 | 三つの柱に基づいた目標の到達に迫る授業作りについて（２年目）  　　　～目標到達に向けた手立ての工夫と３観点による評価の充実を通して～ |
| 研究目標 | 三つの柱に基づいて目標を設定し，その妥当性について検討するとともに，単元題材に含まれる各教科の具体的な目標・内容についての共通理解を図り，目標到達に向けた手立ての工夫や３観点に基づいた学習評価を行うことを通して，児童生徒一人一人の目標の到達に迫る授業作りの在り方を探る。 |
| 研究の計画  今年度の  研究計画と内容 | 1. 研究期間　令和３年度～２年間 2. 今年度の研究 3. 今年度の研究計画  |  |  |  | | --- | --- | --- | | 二  　年  　次 |  | 主な取組 | | ４月 | ・二年次の研究の方向性，具体的な内容，計画の検討等を行う。 | | ５月 | 〇研究全体会Ⅰ  ・二年次の研究の方向性，内容，計画等の提案をする。 | | ６月 | ・三つの柱に基づいた目標設定や３観点による評価の指針となる参考資料についての検討をする。  ・ＶＴＲ視聴による研究授業の準備を行う。 | | ７月 | 〇ＶＴＲ視聴による研究授業  ・授業の様子のＶＴＲを視聴し，三つの柱に基づいた目標の妥当性，単元題材に含まれる各教科の具体的な目標・内容，目標の到達へ向けた手立ての工夫，３観点による評価について，ワークショップ型検討会を実施し，検討する。 | | ８月 | 〇研究授業（１１月）に向けた学習指導案検討会Ⅰ  ・設定した三つの柱に基づいた目標の妥当性について検討する。  ・単元題材に含まれる各教科の具体的な目標・内容について検討する  ・三つの柱に基づいた目標の到達へ向けた手立ての工夫について検討する。  ・３観点による評価について検討する。 | | ９月 | 〇研究授業（１１月）に向けた学習指導案検討会Ⅱ  ・設定した三つの柱に基づいた目標の妥当性について検討する。  ・単元題材に含まれる各教科の具体的な目標・内容について検討する  ・三つの柱に基づいた目標の到達へ向けた手立ての工夫について検討する。  ・３観点による評価について検討する。 | | １０月 | ・研究授業（１１月）に向けた取り組み，準備等を行う。 | | １１月 | 〇研究授業（学校訪問）  ・研究授業（各教科等を合わせた指導）  小学部（遊びの指導）　中学部（生活単元学習）　高等部（作業学習）  ・事後検討会（学部ごと，ワークショップ型の検討会を行う。） | | １２月  　１月 | ・二年次の研究の成果と課題について検討する。 | | ２月 | 〇研究全体会Ⅱ  ・二年次の成果と課題，研究のまとめについて発表する。 | | ３月 | 〇研究全体会Ⅲ  ・次年度の研究についての提案をする。 |   （２）研究の方法と内容  ①三つの柱「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」に基づいて目標を設定し，その妥当性について検討する。【何ができるようになるか】  　　　　○　学習指導案検討会等において，三つの柱に基づいて設定した単元題材の目標，本時の児童生徒一人一人の目標の妥当性について検討する。  ②単元題材に含まれる各教科の具体的な目標・内容について検討する。【何を学ぶか】  　　　　○　年間指導計画を作成する際に「各教科の具体的な目標・内容表」を用いて，設定した単元題材に含まれる各教科の具体的な目標，内容を検討する。  ③三つの柱に基づいて設定した単元題材の目標，本時の児童生徒一人一人の目標の到達へ向けた手立ての工夫について検討する。  　　　　○　三つの柱に基づいて設定した単元題材の目標，本時の児童生徒一人一人の目標の到達へ向けた手立ての工夫について検討する。  ④「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点による学習の評価について検討する。【何が身に付いたか】  　　　　○　３観点による学習評価を行い，児童生徒にどういった力が身に付いたかについて検討する。 |
| 研究の成果 | １）三つの柱に基づいた目標の到達に迫る授業作りについて  　　　　学習指導案検討会，研究授業，事後検討会において，三つの柱に基づいた目標の妥当性についての検討，単元題材に含まれる各教科の具体的な目標・内容についての共通理解，三つの柱に基づいた目標の到達へ向けた具体的な手立ての工夫の考察・実践，３観点に基づいた学習評価を行うこと，を通して，児童生徒一人一人の目標の到達に迫る授業作りに取り組むことができた。「何ができるようになるか（三つの柱に基づいた目標の設定）」「何を学ぶか（単元題材に含まれる各教科の具体的な内容の検討）」「何が身に付いたか（３観点による学習の評価）」の視点に沿って，児童生徒の実態，単元題材の目標，個別目標等について教員間で共通理解を図り，指導・支援の工夫や学習評価について検討を重ねたことは，児童生徒一人一人の身に付けてほしい力や将来の姿を意識しながら，目標に到達するためのより効果的な授業作りの充実につながったものと考える。  ①三つの柱に基づいた目標の設定（何ができるようになるか）  学習指導案（令和４年度版）の様式に沿って，学習指導案を作成し，学習指導案検討会において，三つの柱に基づいた単元題材や児童生徒一人一人の目標について意見を出し合い，妥当性について考察することができた。  ②単元題材に含まれる各教科の具体的な内容の検討（何を学ぶか）  　設定した各教科等を合わせた指導の単元題材に含まれる各教科の具体的な目標・内容について，「各教科の具体的な目標・内容表」を用いて，考察することができた。  ③三つの柱に基づいて設定した目標の到達に向けた手立ての工夫  　各教科等を合わせた指導において，三つの柱に基づいた目標の到達へ向けた具体的な手立ての工夫を行い，実践することができた。研究授業の事後検討会においては，学部ごと，ワークショップ型の検討会を実施し，手立ての有効だった点や課題点，改善点について検討し，授業改善に活かすことができた。  ④３観点による学習の評価（何が身に付いたか）  三つの柱に基づいて設定した個別の目標を達成した具体的な児童生徒の姿や，どの活動場面において，何がどのようにできれば，目標を達成した姿と言えるのかについて考察し，対象児童生徒の評価のポイントを設定することができた。  ２）授業作りのＰＤＣＡサイクルの実施について  設定した単元題材の学習指導案の検討（計画），学習指導案に基づいた各教科等を合わせた指導の研究授業，学習指導略案に基づいたＶＴＲ視聴による研究授業の実践（実践），研究授業の事後検討会でのワークショップ型の検討会での成果と課題についての考察（評価，改善），と授業作りのＰＤＣＡサイクルを回し，授業作りや授業改善の充実ための取組を行うことができた。この取組は，三つの柱に基づいて設定した児童生徒の目標の妥当性，単元題材に含まれる各教科の具体的な目標・内容，児童生徒の目標到達に迫る手立ての工夫，学習評価の設定の詳しいポイントや具体的な規準，についてより深く検討することにつながり，有効であった。また，よりサイクルを回すために，略案とＶＴＲ視聴による研究授業を実践したことも，研究主題に迫る取組として有効であった。 |